

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



承久兵部



野基
本明



兼之丞乱能下目録

官軍しんがく此事

重忠ふせきたぶらぬ事

相模守しんがくせんぎ方々各分此事

朝時かくあきたるより上洛の事

一院さうもつ御おれ事

方々しんがくせんぎ方々各分此事

那多ふせきたぶらぬ事

宇佐橋うせんこの事

信經^{のり}兼吉^{よし}宇治川^{うじがわ}とどく事^{こと}
園東^{のんとう}れんせい水^{みづ}のたま^{たま}り^り
宇治^{うじ}れんせい^{せい}の事^{こと}
赤康^{あかつら}流義^{りゅうぎ}木部^{きぶ}へり入^{いり}り^り
院宣^{いんせん}と春時^{はるとき}下^{くだ}り^り
流義^{りゅうぎ}志^しい^いせ^せり^り
東方^{とうほう}れんせい^{せい}の事^{こと}
京^{きやう}より飛脚^{ひやく}へり評定^{ひやうてい}の事^{こと}
公卿^{こうけい}の事^{こと}

一院^{いっいん}かきり^{かきり}の事^{こと}
新院^{しんいん}の事^{こと}
廣^{ひろ}の事^{こと}
流義^{りゅうぎ}の事^{こと}
中院^{ちゅういん}の事^{こと}



赤久吾乱記下

官軍しんぐんしがくもりす



たり程々戦ありあけのよじりけき泰河小太永
 吾赤とけいひしそてふ今まありとそしし又
 なるくひそふはへしとてこれれは是れ也
 かりちけいひのちろおとそしうんとそは是曲乃
 くるんじやあひもそやうしとり小太吾赤傳を
 けきには井くそしりかありそみ志ぶ川の赤は
 とそすののちちけり城日乃らそとみそにねの
 りませせといわれそそせいの中さうけりけり

かひじこはちあいまにふりぬ事よしは
こまぐいしとまじし申す(とまじしは次
らこは太政大臣の一回り太政大臣と
甲斐源氏志のまの位人おとこ
とらこ次次次と出くすかかか
じしとまじしと馬とまじしと
つし又あかめしとまじしと
て馬も人とせりあきくは事よあいぬ
人とつれぬし長清じまはん事よ
のこまじしとまじしと

おちあたまひまはし侍らまじしと
まじしとまじしとまじしと
まじしとまじしとまじしと
まじしとまじしとまじしと
まじしとまじしとまじしと

朝あさ小こ陸りく道だうよりよあのみ

よりより朝あさ式しき祓はら至し朝あさ月つき廿にじふ日ひ廿にじふ日ひ
よあのみ
あひまひみかみかふとより東あづまと仁に神かみ
にに天あま崎さきおまのの衣えまつらつらけけて

みかづ紀の石将アリうれせい一千八百廿六年
一へし山田平信東兵衛の針又將軍一七
三塔の六座とて一そつてあうのせい二千よき
とせいせへい紀乃長アサ物入迄はとのそ
平九代判友下ふこれあ司長友判友といり
じれとてあひそへ二千よきううひのせへ
長瀬判友代りしり判友代一千よき宇佐
へい作木乃中細きうひのこいやう中島左
衛門作石岡信光太又作徳れせん一とよき
小松は下作木乃一治のそ孫太郎判友

こいりんれとせし二万とれぬとの湯へあだ
うれ源友あつ村いそあひひ二条れさや
中將二位法平一ふとれ信へ坊門の大
細一十さしうせへい坊へ入道六百とれ
ね合け勢二万七千よきとてまきこいけり十三日
官軍もふとせしひかりも勢乃るあや
これより二門の六座とて宇佐よりしう
部の高とて勢あひむきううとて
月とてより地やうのまらうさんりてあ
とてやとせんしとてとてとてとて

つりーいふ夫と三町あり住こーして一日の
次なるぬきりあつたしよとみながうらたし
うらみのつとつとつとつとつとつとつと
ら中りりりりりりりりりりりりりりりり
はゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆがゆが
てらららららららららららららららららら
いりりりりりりりりりりりりりりりりりり
せぬせとゆれれれれれれれれれれれれれれ
こたりい一五日うらうらうらうらうらうら
ひらりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり

ぬきりりりりりりりりりりりりりりりりりり
えきりりりりりりりりりりりりりりりりりり

宮橋をせんの本

月十三日ししししししししししししししし
とれり回奈よらんししししししししししし
とらりれちほへうらうらうらうらうらうら
ぬきりりりりりりりりりりりりりりりりり
いひまねいかにらららららららららららら
まりりりりりりりりりりりりりりりりりり
いりりりりりりりりりりりりりりりりりり

たごのやうにいせふうちありは三毒よとよき原
うけのまれ田代作たけ木末門太記かゆれ丸
玉井たまのね田代たけ文ししれせう長江ながえふたすやま
れ水戸みづのう勅使ちくし行奈次なつなれせういふくうち河
り安東やすとう音おりのせよのそんてみまゆりみ
こいぢりくもくしりくうりぐうをりせ
とこしー三ぶんいりまりてとこしーせん
うけせまこくせしんくもくしんくいしん
てよしりみんと三十いりうちれりり一
りもみくしんせくたり河りせとまみて安

東とうりそくしけまの陣せんのうらりまをくそ
せいうちのれり安保秋部あか在まやりふのせ福ふくらの屋や屋えん
部ぶのへはの今年ことし八十四行やりはいりれ
とくうちのれりり一りをくしんせよ守り
井い末ま末まの入道にんどうこまは軍ぐん小野寺おののてら中書ちゆうしよ日
くこれ共未入道いんどうなれまよしんをけ中ちゆうい海
れ河江の馬うまをけり一ふあましりけりなを
この軍ぐんの入道にんどうゆなれまよしんをけり
しー二人ふたりふしんをいふい布ふ施せお末まの法はふ良
こまは孫まご太た秋田城あきたのしろ四部しよぶとんしんれ秋部あきべ良

山崎 又良 高田 小次郎 成回 吾未 祐清 次良
斜河 次良 相馬 三下子 とも三人 志村 保三 良
一 保良 太良 物射 次良 志回 小次郎 作助
次良 同小次郎 浪谷 平三 良 下二 千五
あつと名はつとてけり一ふもつと
世小 守り 又妻 平塚 小太郎 妻目 太良 長
江田 良 飯田 友進 飯田 友成 飯田 友成 出羽 良
志村 平三 良 同良 太良 同良 平作 吉次
良 教合 又百 ともつとつとつとつとつとつと
六妻 鞍馬 小次郎 けつま 良 志村 次良 太良

戸小 田合 金子 与一 同小 太良 作妻 友成 太良
井原 六郎 といひつとつとつとつとつとつとつと
三七 七良 長部 六良 精屋 太良 といひつとつとつと
いせん ぶう 二百 ともつとつとつとつとつとつと
大元 ともつとつとつとつとつとつとつとつとつと
飯田 平 飯田 友進 飯田 三郎 ともつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

梅さくらひくひんをねいカとひび行いと義時
と成後より始ひく去日れ形部いひと二
人うしやのまうと奉付いのちとけきう者
これいし度乃りやう力へりしのり
上即去て七十余町と始り成茂も奉
時のまうく小太郎時氏又れととん
人のとけりやうはうちれんとしけり
原玉の恒人作久間太郎宗盛とあり
馬のくらんまじどとりけりスカれ
れん馬もゆしもうとさ次おま友人

おかくいしも今もあつみと仁はひし
れん太郎友ととてうかんてうまゆ
まへ大親乃ひくゆみたさうり
さうは川ととてとてと坂東れ
とけりしととてとてとてとて
もいし作久間とととととと
宗盛とととととととととと
とととととととととととと
とととととととととととと
とととととととととととと
とととととととととととと

しよ兵もは草あり見せりや久我た
日節勤修寺を回ひし小山東の塚
ふせりりてありひし一二万あるひく又
千は裾のありしひり入してなれは
三公卿相小のまん在女房つれひんく
あまふしひ宿女ゆらまよしあはら
きひたりさまよふ天地いひや
しうち浩中てり事いそあつ
れ号永の心し平家朝とあら
かといりり名代行し家とありし重

代れそのこころしころね
はうありひしこまありひし
あはふしひ田れくりや
地子しこのりし馬し
つをよぬ抱しそありひし
うはされあはひしまん
ろのしそはんし
うりありし
にありし
くくのまん

此をよりまねるる軍一じき一此もすなり此は
亦あつて夏に船とてよもより船とまの
お乃住人^{おのすま}もね次をうづり此水のさつげよ
火とけけりうのきりてふよつていおひつ
一^たは一日ひらせうのりつりてりくよ先
とて入系この兵をも一いよもせよともあち
まよりすもれせんとキりの入道^と小山^{やま}麓^{もと}の
いあつひい舟^{ふね}よよりあつひい^い代^{しろ}とてえと
とより^いは一日^{いちにち}等^らのよもりてありても
れたるよはけりてとてりうづり^いれはなむ

こらがきつるひ七百二十ありこれとよりせん
てしうれつちやう時氏有時^{とき}とてて
くこつはつみふすたりてゆりなすつ陣^{じん}
とつて夜よ入^いしう^しはさねよとてすり
これちのよへはつひとてて^いれまねる^ま泰^{たい}
村^{むら}二三人^{にさん}うちをいしう^しはさねらん^{らん}く
りり^りり^り勘^{かん}多^たれても字^あ法^{ぽう}を^あがさた^あち^ちね
とま^まこ^こし^しつ^つい^い一人^{ひとり}も^もい^いく^くもの^{もの}の^のく^くみ^み
おろしせり^らむ^む邪^{よこしま}小^こ鹿^かの^の大^{おほ}鹿^かも^もあり^りゆ^ゆ
たりたり^りおち^ちの^のち^ちん^んと^とあり^り祈^{いのち}ん^んあり^りせん

ついでしうりうせの中へ作念次平兵衛云野鳥
し平九郎判友とみえんせんりまんからうり
れいひんくかろうりなりゆきやうりその毛い
まいくをへきに作念次平兵衛志といひま
とらうひんくかろうりなりゆきやうりその毛い
ひんくかろうりなりゆきやうりその毛い
すやけのいんくといひおし太郎いぢれいす
うぬしけうしうしうしうしうしうしうし
し中よりなりゆきやうりなりゆきやうり
かきまればなりゆきやうりなりゆきやうり

多しりせりまれば馬よりなりゆきやうりなりゆき
うしひけりかげうしうしうしうしうしうし
米太郎に見て兄弟いのちをうしうしうし
うしうしうしうしうしうしうしうしうし
たれうしうしうしうしうしうしうしうし
しうせうしうしうしうしうしうしうし
我さきましうしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうしうしうし

いまの平の判友にありたりた祐一は事
ひらねとさうなれしふよものあらせよ
一つとありきまゝしつれうらうら
てなれとせいのせふなれいしたきく
かまゝぬゝ一なれよとておつとて東
してむらひありこみこれ平次とけら
くやうものありたひうらうらけし
あつてくまんとけらすけらかうら
あひそんた祐一にめれとてうら
とありたりとらんてありすけら
なり

かへらあひく頑とありた祐一は事
とて祐太は事おとふにありて東
うてありけりなり次郎兵衛と井
これと東へたりけり六とて
とせり小作の中へ二人とて
あつてうらうらとせよありた祐一
しけら東へとせ入相のありとて
とてあり

院宣と恭時と下とあり

又日見れと恭時とんとのありとて

そのくちへ入事ありいされりゆへに
四下^{シヨナウ}中よりうてまはりけりん事人^ニ愛^ミのま
き^キに后^{コノミ}妃^{ヒメ}宋^{ソウ}女^メ乃^ナのちかそくとしておまりに
ふひんまむか^マのころまれしうまむけてそ
れいへとおかきしきれし春^{ハル}時^{トキ}鳥^{トリ}よりなり
院^{イン}の四^シ下^カよりひりたいたいんしんせんといひさ
みなりえたうきありまにむさうてりこま
いこうけ給^{タマ}ひんぬ親^{オヤ}とてん義^{ヨシ}内^{ウチ}より
うけたりりし何^{ナニ}とゆへんをりんせんやと
ゆふあそく院^{イン}宣^{ノシ}といふやうに衆^{シユ}とてけり

而^{シテ}いへりんさうよく糸^{イト}とんしえうれか
れへいこふんととまうりうまひい
から相^{サカシノ}持^{トキ}ち時^{トキ}分^フよりあつれきれいさうり
とよいとしつ六^ムのちの^チ水^{ミヅ}角^{ツノ}ふらんをりてめ
行^{ユク}ひふれい大^{ダイ}世^セいふ六^ムのちのち入^イなり

後^{ノチ}義^ギ自^ジ喜^キれ事^{コト}

た祿^{ロク}うい東^{トウ}山^{サン}とんふいせんと思^{オモ}ひたか
しきあーりたけ太^{タイ}秦^{シン}のみとてとて
なけりあそゆんをひあちけりけりうた
いてき大^{ダイ}世^セい行^{ユク}ましれりしとゆへいこく

より三浦の一門にさだにやい入道ち一に
しは年一移るん心志がいし一と申され
した祐一いしと申すうり相ふまはさう
太郎吾おん志ぐいせよ心アとくみとんと
いひきいしちやうとまはしんもくすんよ
りききりて死ぬたゆり一とてひつんとさ
おしととゆりつて教家入道みんぢの又
みかくびとりてすりしちちもつゆき
さしとらんちこれゆりつてゆりあしと
りちつとせうへいしとのせんよ三浦一家
和甲九

と申すゆりしと申すゆりしと申すゆりし
又祐一一家と申すゆりしと申すゆりし
く人のしらんちをいふゆりしと申すゆりし
たゆりしと申すゆりしと申すゆりし
りさたりてゆりしと申すゆりしと申すゆりし
ひとりしと申すゆりしと申すゆりしと申すゆりし
まうゆりしと申すゆりしと申すゆりしと申すゆりし
まゆりしと申すゆりしと申すゆりしと申すゆりし
くびと申すゆりしと申すゆりしと申すゆりしと申すゆりし
まゆりしと申すゆりしと申すゆりしと申すゆりしと申すゆりし

親子兄弟たよむに犯さる海軍いまおれ
めね事有りきく才甥のそびとさうの神
くくさるわらう系よりたつた傍をさや
うたてまうり併事よりかこひ火奈
のまひももひをくつりりさうさるり

東方の兵らうくさるさる
乙回次郎重忠し西山へ入るさよのさよ
取言さうり念仏しけりあう天野丸
しそれいさふいさふひりりさる
うや伊豆守守地さうけいひまら由

志がいにいひたれと田い志がいでゆ
けり伊豆守いきさるね赤康日赤地
いきさるねさるり下徳お司そりけい
いきさるりかまやい西山へ志がいけり
志がいねあふいさふいさふりさる
いささるねさるり山塚も後有判本ねさる
いけいさるねさるりねさるり志がいさ
山基徳りうけいさりてさり他んさる
てさるりさるりさるりさるりさるり
さるりさるりさるりさるりさるり

はとぬーおしりつせんそてやんろくまへ
まつせ行ひたりそれより三代お軍のいん
ふまつせ終ひくはよ流こひトありきれい大
お名らせあひよりいひありいふもトあり
まゆいふふいふたれおやいれぬとく
よろいひふりかひきさほけてくんと
たう他ゆよりありありすまのうひや
やうまつーとくお名ももろまより
つんのかういふお名大史入道よりきれ
しゆくお院くまうとくま玉へあーえ

年久一二月の雲あり坂東へりてま七
とい流うしんかうたふまうしんろく一
郊のまうりしんいふま井のる将取のこした
他一抄録とい流湯取(り)つせうろく一とを
るー人といきんとつと義州は第一ん
とつふふーはきにこつとあせなれ大
名とまろりーとつとあせなれ大
とつふふーはきにこつとあせなれ大
成へそれかりとつとあせなれ大
とつふふーはきにこつとあせなれ大

此外祖ハナハシありと尋時ヒコトキが親ニギハヤヒなりとありとされしを
 正マサとすなりと云ふことありしに似たり
 と見えしゆかりとねもゆかりと見えし
 乙王サマノミとありしゆかりと見えし
 右ミとありしゆかりと見えし

云郷クモノ飛トビ科カの事

院イニセありしゆかりとありしゆかりと見えし
 院イニセありしゆかりとありしゆかりと見えし
 院イニセありしゆかりとありしゆかりと見えし
 院イニセありしゆかりとありしゆかりと見えし

ありしゆかりとありしゆかりと見えし

坊ハツシ門ノ大ノ細ノ云クニ忠ノ信ノ

按ア案ノ大ノ細ノ云クニ光ノ親ノ

中ナカ御ノ門ノ中ノ御ノ云クニ宗ノ行ノ

依カ木ノ中ノ御ノ云クニ有ノ雅ノ

甲カ斐ノ守ノ中ノ御ノ云クニ飛ノ彦ノ

一ヒト条ノ守ノ中ノ御ノ云クニ信ノ能ノ

一ヒト条ノ守ノ中ノ御ノ云クニ信ノ能ノ

一ヒト条ノ守ノ中ノ御ノ云クニ信ノ能ノ

一ヒト条ノ守ノ中ノ御ノ云クニ信ノ能ノ

多かりし御ひびりし忠信那のいのちをたとひ
とせ行へし権大進及二位殿へかりせりはるを
れし格なりたるまのまといのゆかりし又つり
きり八月一日に休たすまの必ししもとて
あひさしきねしあはりの成士千条女た
祓けま二位殿より河内水とてゆかりのか
せなりぬあせられぬ細文親にこれとて
まひくくくしとてゆかりしひまねりなむ
ふぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
とをゆかりしとてゆかりしとてゆかりし

八月二日とりにれまへらうとれぬぬむす
十日中四門入迄市細文京行ひし菊川

昔南陽縣菊水 汲下流而延鈴
今東海道菊河 宿西岸而失命

とてゆかりしとてゆかりしとてゆかりし
とてゆかりしとてゆかりしとてゆかりし

月十日れらるのこくも並にとてゆかりし
とてゆかりしとてゆかりしとてゆかりし

升りきりし始むぬり本中御堂あり西の
まやういふと原ぐ一たんまうりて甲斐アノミの
まはらゆやまいせせしつふおとをさる
と二位サトノ殿ふちうりし祓ありうれ御を奉
今日よあふんとれしつ二内ニウチのつちをた
行へとの始ひをりてさうりて多り一内イチウチあり
ありて有アリ社ニヤクヤクまうりたてまうつらま二位殿
れは在奉あり志申くさうちうらま一とい
いひまう一内イチウチのち候まはしとてさうれ統
りりしを表アヒされしとて原まうり二とたのつち

とまじりしをくさうちうらま一といひまう
情ナラフまうあふゆまはしつちのちりしとてさう
をいさうさうてしとてまう一テウ条テウのちや
中將ナラフのちや一ふのちまうとてさうりたて
けり同十八日ナラフのちひのちうち中ナラフありもち
あしとてさうせされひりて入ナラフ水ナラフをら六
くれナラフ公ナラフ卿ナラフのあとのちけさふも中ナラフありとて
あり

一院イチエン浸ニル波ハまへありし終ハシ事コト

七月六日ナラフ春ハルのちやうナラフ時トキ氏ウヂのちやうナラフ

うせられまはし一院とせられしひらせ行の西か
りりうしむせ給ひく西をともてうらまを
とううせ給ひ西車れううの西をけり入りせ
あうくと語りたり同十三日六けりりり氏
外登まアアておまれむへうけりまのへまは
と下りれい西車家りうてははさふまていあど
とあかりめけりうまをさ福よとさこりりうま
て東西とううまうせりあをうけりけりまを
録し近湯殿までともうせ給ひり君防園
見とたりてうらうせ行へとあそひされり

御書はたれをよ

すこそちの袖に情紙をけりよ

ふいふかりとすまよとすま

とあそひされりりたれと抄改の西のかりも若
れ若りえりううせ給ひ西のしとかりとてきりさ
ゆかり一院の西のしとてりい女房あふくへ飛菊
ぬひりて一人くま一人てし乃せんといひあ
ふとむさしれ檀のうらまはりしとそやうし去
かり平家の乱せりい白河院を形取よう
けりせ行ひりてとせのうらまはりしとそやうし

うらむりしけりみせりいふ事の中
とてえとせゆよじりぬのりりそみちあ
そいほくへかきみちをこころせ行りよふ
るよそいりいんかよつとてせし
こころんたまぬこころかひん
じいひれみちるまじりまじりか
いけをのまふしとこころせしをゆふか
まとしてちりねたよりまをれい修明門
にふせしとてあり
あつちりやうえりけりふめいゆり

あつちりやうえりけりふめいゆり

くて日教うまむ八月又日あつちり
れりりてれ七所入てぬんはしり
をりりりんたわいあつちりまじり
れこころんたわいあつちりまじり
まじりりりりりりりりりりりりり
西鏡せりりりりりりりりりりりり
しせりりりりりりりりりりりりり
あつちりやうえりけりふめいゆり

りて八雲抄ヤクモセウ下九条殿へたまひしをりたるか
書シれむコり

よきことなるしと云ふこと

うらなひのいふことあり

板イタはひんヒぶフ九条殿より西を申さるるま

いふことありしことあり

うらなひのいふことあり

同本四日六条宮イナたりしもの出りし所されしを

路ミチより川カハより西へしつゝをりし所ツボありし

いふことありしことありしことありしことありし

経ツラシりり同本又日冷泉シメイノミヤ文フミひせんのかきしことあり

やうヤウこコへヘいイはハされしをりし所ツボありし

亦マタふフりリてテ下シモ経ツラシけケりリのノ形カタありし

所トコロにニやうヤウ中ナカ將マサ信ノブがガ右ミダ弁ヘン光ミツ俊トシとトも

ありしことありしことありしことありしことありし

いふことありしことありしことありしことありし

りリとトいイふフことありしことありしことありし

にニモモ終シマ明メイ門モン後ゴのノ事コトありしことありし

一ヒト院イン新ニウ院インのノ事コトありしことありし

ねネのノ兄イニとトいイふフことありしことありし

じうはも五世の七代もあんとんが
りしむといのうあふんかといのりしむと
を合ふかといふけりしむ人といふ子といふ
かといふかといふと後いひより車といひて
ふりあふかといふはあつたわはふとせ
あつてじうは城のたをけりしむと
うといふけりしむ人といふ信治が事仕りしむ
うへりしむの信治とこんとうが川の
りしむとあつたといふけりしむと
うといふけりしむ人といふ信治が事仕りしむ

はしむといふけりしむとあつたといふ
けりしむ人といふ信治が事仕りしむ
うといふけりしむ人といふ信治が事仕りしむ
いしむけりしむ人といふ信治が事仕りしむ
うといふけりしむ人といふ信治が事仕りしむ
たりしむ人といふ信治が事仕りしむ

徳義が子共

東野丹もいふとあつたといふけりしむ
かりしむの平利友といふけりしむ
七五三といふけりしむ人といふ信治が事仕りしむ
うといふけりしむ人といふ信治が事仕りしむ

まゝにやうせぢひをれしかりくもりそを免
たてまつりきりそ免しこそきりも法皇と死而
へ有りたてまつりてうめさして花洛とあり
いと真乃せうんよりありふたのえさう
あつむ兼元四年のゆきみふしとて人
家ふ生とてゆき事い父母りせんかうしは
一こんれうとていそく不若れ自らとまん
しはゆき事いそく不若れ自らとまん
ひとたひく冥業へゆきせぢひをれしかり
たてまつりてうめさして花洛とあり

あつむ兼元四年のゆきみふしとて人
家ふ生とてゆき事い父母りせんかうしは
一こんれうとていそく不若れ自らとまん
しはゆき事いそく不若れ自らとまん
ひとたひく冥業へゆきせぢひをれしかり
たてまつりてうめさして花洛とあり

五法にこれ犯しふ東園天下をわたりて
ゆふふそやまつらん口ひらんとてゆひ
けらつて西邊くろくろ大田所をこゆ
れとゆゆしげりとえうけたまひ院はそ
させ給ひしうもと東院乃ゆと志たふりし
ふはゆゆ院への位下りもりし院とす
とゆゆ院のゆゆりゆゆありゆゆ
いふふにじゆせゆひをゆゆゆせとゆゆ
そゆゆせゆひけりやゆゆゆゆゆゆ
今の世りてゆゆゆゆ院のゆゆゆゆ

承久三年秋にゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ



佛教大學所藏

1150472







